

柳瀬川流域河川整備計画の概要

柳瀬川流域とは

柳瀬川流域とは、新河岸川流域の一部である柳瀬川を本川とした流域であり、東京都北部と埼玉県南部に位置しています。流域面積95.5 km²のうち、東京都区域は45.2 km²になります。

柳瀬川は、所沢市上山口の山口貯水池に源を発し、中流部で都県境を蛇行しながら途中の東村山市内で北川を、清瀬市内で空堀川及び東川を合流して新河岸川へ流入する荒川水系の一級河川です。

空堀川は狭山丘陵の武蔵村山市内にある野山公園付近に源を発し、東大和市内で奈良橋川を合流します。



流域の特徴

柳瀬川流域は、昭和30年代頃より急速に都市化が進展し、それまで山林や畑地に浸透していた雨水が、地表面を流れて河川に一気に流入することによる水害が、多発するようになりました。

昭和50年代より本格的に行われた河川整備により、大規模な浸水被害は減少しています。

しかし、近年では、平成28年台風9号、令和元年台風19号等の豪雨が頻発し、浸水被害が発生しています。



河川整備の目標

柳瀬川流域では、洪水に対する安全性を向上すると共に、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めていきます。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、柳瀬川、空堀川及び奈良橋川の3河川で、河川の整備から維持管理に関することも含まれます。計画期間はおおむね30年を目標としていますが、川をとりまく状況の変化や社会状況の変化に応じて見直しを行います。

河川の整備

治水

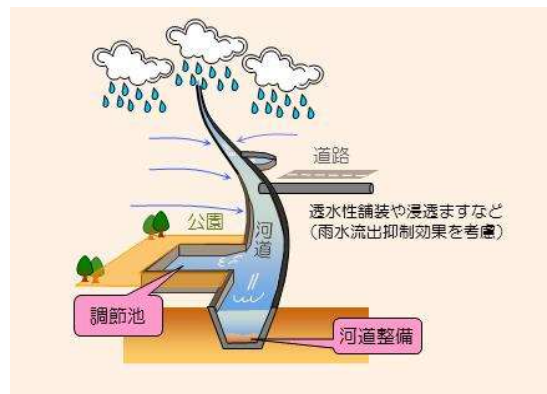
・・・洪水による水害の防止又は軽減

令和3年4月に柳瀬川流域が対策強化流域に追加されたことから、目標整備水準を年超過確率1/20(1時間あたり65mm規模)の降雨に引き上げました。

整備については、時間50ミリ降雨までは河道整備により洪水を安全に流すことを基本とし、それを超える降雨には新たな調節池等により効果的な対策を実施していきます。



拡幅整備した空堀川
(東大和市奈良橋付近)



洪水対策のイメージ

環境

・・・河川環境の保全、創出、再生

残されている自然環境を可能な範囲で保全すると共に、水辺に親しみを持てる身近な川を目指します。



河畔林を保全した護岸の整備
柳瀬川 (清瀬市下里付近)



親水性に配慮した緩傾斜護岸の整備
空堀川 (東村山市美住町付近)